

【議事録】第1回 策定委員会

- 開催日時：令和6年2月29日（金） 14時00分～15時30分
- 場 所：鏡野町役場 危機管理センター
- 議 題：1. 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画について
2. 立地適正化計画における現況課題整理
3. アンケートの結果

■委員長・副委員長選任

■協議事項

～～資料説明～～

■質疑応答・意見交換

質疑応答、意見交換については下記に示すとおりである。

◇意見について

- A委員) 20年後を目指した計画では、鏡野町をどのようなまちにしていきたいかが最も重要だと考える。委員や町民、そして事務局の皆さんの考えを整理し、持続可能な都市の形成に向けて何を行うかを検討する必要がある。
- 私は児童学科を専門としているので、今後の子育てや保育教育について関心がある。高齢化だけではなく少子化についても問題になっており、県でも少子化対策が進められているが、その取組が気になっており、子どもを増やしていけるような施策を皆さんと考えていきたい。
- 会長) 子育てしやすいまちづくりなどの観点を計画書としてどのようにして表現できるかは検討することになるが、今後もそのような観点の意見もいただきたい。
- B委員) 私は路線バスの担当をしているが、現在、人口減少や少子高齢化が進む中で、バスの運転手不足が一番問題だと考える。また、乗務員以外にもどのようにしてお客様に利用していただくかが問題である。コロナから大分回復してきたが、このような観点から意見したい。
- 会長) 全国的にもバス路線に関連して、人手不足や路線の見直しなどが様々な場所で大きな課題になっている。公共交通の課題も含めた方針も計画書の中に何か表現ができればよいかもしれない。
- C委員) 人口減少、少子高齢化の対策として、若い世代や子育て世帯に対して融資の関係などでなにかお手伝いできるのではないかと考えている。雇用の問題は開発区域以外でも懸念されている。
- また、今後の課題として農業経営の後継者不足や耕作放棄地といった問題がある。離職者問題も懸念されているので、雇用・人口の増加、少子高齢化対策などを見据えて、課題をお話できればと思っている。

- 会長) 農地については、非常に大きな部分になるかと思う。東京だと生産緑地など、農地の保全などを含めた何らかの施策を行わないと農地は減少していく。鏡野町では、観光と結びつけて、体験型の市民農園のような取組みでの展開が可能性としてあるかもしれない。
- D 委員) 観光的視点から言うと、町北部には山や川などの資源があるのでこれらを活用していくことが重要である。また、インバウンドで外貨などの生産性を生むような魅力あるまちづくりにしていただきたい。
- 飲食店・病院が必要であり、これらを総合的に含めて、健康なまちづくりを目指し、鏡野町に来ると健康になって帰ることができるまちにしていきたい。
- また、北部の町民の移動手段は主に車であり、これらの要素も考慮したまちづくりにしていただきたい。
- 会長) 観光についても非常に大きなテーマだと考える。先ほどのインバウンドの話もあるが、この計画の中にどのように表記できるかわからないが、皆様方からいただいた意見は、フレーズとしてどこかに表現したいと考えている。
- E 委員) 6年前の水害の際に国民健康保険病院が浸水想定区域であることが判明し、道路・設備の機能が使えないということから、2、3年前から病院の建て替えの話が進んでいる。
- 県北の医療機関では、人口減少に伴い患者数も減少し、専門職や事務職員の人手不足も進んでいる。この状況下ではダウンサイジングが避けられない状態である。
- ただ、中山間の小規模の病院ではあるが、県下の公立病院としては患者が例外的に非常に多い状況にある。理由としては津山市から来院する人が多く、その点では病院の持続可能性があるがやはり職員不足が問題になっている。そのため、広域連携していく必要がある。
- 国民健康保険病院についても少しは従業員さんの負担を減らすため、人材交流や広域連携も必要になってくる。
- 民間病院などはやはり業績が上がらなければ継続できないので、立ち行かなくなる。それをどう維持するか頭を痛めている状況である。
- 会長) 病院の建築物の機能については、わたしも建築を専門としているため非常に建物の複雑な機能やその地域の中における病院の位置づけの大切さを理解している。
- 町の都市計画マスタープランにおいて、全体の構想と地域別の構想を示すことになる。病院が立地する地域はコミュニティや防災などの観点も含めることになり、他地区とは少し異なる特性になると予想される。具体的な内容についてはお話を伺うことになる。その際には、国民健康保険病院と周辺の地域の関係性などのことを、E委員の立場からご意見をいただきたい。
- F 委員) 社会福祉協議会で奥津地域と富地域と上齋原地域福祉センターを担当しているが、町北部の地域と町南部の地域では課題は全く違う。
- 町北部の地域では交通手段が不足しており、通院や買い物に行くことに不便を感じられている。さらには人口減少による後継者がいないということで耕作放棄地や荒地の増加、祭り事などが行えないことなどが問題になっている。

社会福祉協議会の本署が古川の方に鏡野地域福祉センターとしてあるが、洪水浸水想定区域であり、何か災害が発生したらボランティアセンターとして機能する場所であるため、計画の中に盛り込んでいただきたい。

私の子供も町外である、県南の方などに出てしまったが、若い人が転出しないようなまちづくりを進めてもらいたい。子供や子育ての環境はいいが、そこに至るまでの若い人が住みやすいような職場環境などにも力を入れてほしい。

会長) 福祉関係の交通の話は全国で問題になっており、例えば東京では観光を目的とした地域循環バスが、障がい者、高齢者の外出支援ということでバスを循環させている。そのため、鏡野町としての考えもあるだろうが、今回この交通政策でそういった次の施策に繋がることを検討すると良い。

また、やはり防災関係については今の時代、重要とされている。オブザーバーで岡山県の方がいらしているが、今まで20年ぐらい前の都市計画マスタープランと近年の都市計画マスタープランをどう作るかと考えたときに、防災絡みの話をどのように示すか、場合によっては方針程度の形でよいかもしれないと思う。ただ岡山県の方と相談しながら考えていければと思う。

G委員) 私が中学生の時に奥津、泉、羽出が合併した。現在は富村、上齋原、奥津を含めても、小学校の生徒数は10人未満で、当時の10分の1以下である。現在、羽出には多くの65歳から70歳ぐらいの高齢者夫婦が残っており、その中で亡くなる方が出るたびに空き家が増えている。若者は帰郷せず、人口は減少の一途をたどっており、少子高齢化は現実的な課題であり、鏡野町内でもますます深刻化している。

それで、何が一番良いのかを考えると、魅力的なまちをつくるということで、鏡野町の中心部に賑やかに工場を誘致し、財源を確保していくことがよい。

真庭市には(株)旭ポリスライダーという医療機器を製造する工場がある。従業員が220名程で、さらに家族を持つ場合は市町交付税が1人当たりいくらになるか不明であるが、町は財源を確保できるのではないかと。それから売上高として連結しているイズミグループの法人税などでも財政確保できるのではないかと。工業・高専・商業などの若者には働き口があり、町北部の方々にとってもこの地域での雇用は魅力的なものになる。家の農作業や介護の両立が可能な環境を整えば、効果としては絶大だと考える。そのため、せめて200人ほどの企業・工場ができればよい。

泉山の下に奥津中学校を宿泊施設として、泉山登山などの学校のカリキュラムに入れてもらい、反対側にある奥津温泉に入っていきような施策も考えられる。

会長) 人口減少の問題に対して、魅力的なまちをつくることで地域活性化につなげていくということだと理解した。最近では関係人口、そこから交流人口に移り、さらに移住にまでつなげるというような流れが組み立てとして多くある。先ほどまでの意見の中でも雇用や人材不足についての話があったが、それらの課題と少し絡めながら検討していくと繋がりが出てくると感じた。

H委員) 上齋原・奥津・鏡野地域が市町村合併により一つになった鏡野町を見てみると、鏡野町役場が合併後も元の場所から移転していない。町役場を鏡野町全体の真ん中辺りに移転することが望ましいと考える。ハザードマップだと多少の危険があるが、

苫田ダム周辺に立地すれば町全体が変わる可能性があると考えます。また、個人的な話として、私は家族で鏡野町の宅地を探しているが、あまり見つからない。農地は多いが、農地を宅地にする際には様々な制約がある。おそらく他の家庭でも同様の小さな望みがあり、それが叶えば定住し、叶わなければ転出することになり、人口が減少することになる。

鏡野町の教育方針や暮らしの不便さは感じるが、人もよく、コンパクトで暮らしやすい町なので、もう少し有効活用できないかと考えており、役場の場所を変えることで町全体が変わるかもしれないと考えます。

会長) 公共施設の配置や規模が現状適切であるとは限らず、将来の人口減少や町の状況変化に合わせた施設配置が必要だと考えられる。

宅地探しで言えば都市計画マスタープランでの土地利用と関係する可能性もあり、なにより住みやすさや住み続けることの観点から、都市計画マスタープランの位置づけや内容が重要になると考えます。

最後に、コンパクトなまちづくりという意見があったが、全国的にコンパクトシティという概念が注目されている。この取組がいきなり組織化されるかはわからないが、コンセプトでなにかしら示すことができれば良いと考えます。

副会長) 公共交通の視点で述べさせていただくが、令和3年12月から、鏡野町ではタクシーの利用に関して、65歳以上の免許返納者を対象に60%の割引制度が導入された。また、妊婦の方など、様々な対象者がいる。この60%割引制度が導入されてから、会員数が600人を超え、需要は増加したが、運転手不足よりタクシーの待ち時間が30分以上になるという問題も発生している。

F委員が指摘されたように、病院へのアクセスが難しくなっている状況や、今後、労働時間が短縮されることになることや、運転手不足も懸念される。しかし、地域の人々が円滑に病院などに行けるよう、様々な対策を検討している。

会長) 先ほどのバスやタクシーに関する話題もあったが、公共交通の将来については非常に重要だと思う。物理的なインフラの整備だけでなく利用者にとって便利な仕組みや町全体の効果的な活用方法も考慮すべきである。このようなテーマについても皆様と議論を進めたいと思う。

会長) 皆様からの意見は記録に残しているので、整理し、報告することとする。

また、次回の会議までに都市計画マスタープランや立地適正化計画については身近なものとして考えていただき、これらの計画になにか活かせるような事業や施策についてご発言をいただければと思う。

計画が策定された後も、町は常に変化しており、過去のマスタープランは現在の状況と異なる可能性がある。そのことから、今現在の皆さんの希望を反映させ、今後の計画として整理し、再評価を行った際に次の新しい町の姿が見えてくる。

岡山県の方も参加いただいているが、今回のマスタープランも行政が単独で作るのではなく、町民の声を反映させることが重要になる。事務局には、定期的に町民の声を聞く場を設けるよう要望する。アンケート調査は行っているが、その結果だけでなく、評議会のような場で様々な意見を聞くことが重要である。

本日の会議では、冒頭に3つの課題について説明があり、皆様からご感想やご意見をいただきました。この会議は継続していくので、今後もこのテーマを意識していただき、常に意見を持って参加いただきたいと思います。

事務局からの説明があったが、本日提示した計画資料の内容についてはまだ確定していない。そのため、皆様のご意見や今回の議論が大きく影響する可能性があり、少なくとも先ほどいただいた意見については計画書のどこかに表現や表示などできれば良いと思う。

副会長) 委員の皆様からさまざまな切り口の貴重なご意見をいただき、自分自身が思いつかないようなアイデアをたくさんいただいた会議であった。今後も皆様と連携をしながら、より良いまちづくりを進めていきたいと考えている。

以上